

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 桑原 隆 会員数 約2,900人)

T E L 03-6801-5951

1 前 文

現代文は情報量が多い。時間的に厳しかったのではないか。新傾向問題は、今後の授業のあり方に繋げる意図が見えるものの、実際の授業との乖離も感じられた。古典は、古文は文章の難易度は適切だが、設問でもう一つ文章の文章を読むので文章量は多かった。漢文の文章の長さは適切。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式

第1問 文章の内容・長さは妥当。しかし、【文章Ⅱ】の「動かぬ視点」が、短い文章から読み取るにはやや理解しづらく、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を複合させるのは、相性が悪かった。正岡子規に関する問いがもっとあっても良かった。サヴォア邸の写真の意図が見えづかった。写真の選定、あるいは読みに結びつける誘導など、もう少し工夫して欲しかった。

問1 問われている漢字が、社会的な用語に結びついているところは良いが、難易度にばらつきがある。感冒や緊縮は語彙として難しい。

問2 問2という位置にあるものとしては難しい。導入のための問いにしたほうが良かった。正岡子規について知らないと解きにくかった。

問3 引用文をきちんと読まない間違えやすい、というのが良い。引用文を読み飛ばして筆者の主張だけ追うのではなく、なぜ引用しているのかを考えることを意識させる意味で、良い。

問4 「フレーム」という語を問3とのつながりをおさえつつ考えていく良問である。表現の特徴と効果を聞いていく問題に近くなっているのも、問3と違っていてバランスが良い。

問5 写真と本文とのつながりを明確にしておいてくれると、もっとわかりやすかったかもしれない。写真の理解に時間がかかってしまう。

問6 今後の授業の形式にもつながるという点、いろいろな考え方を比較するという点、他の問いでも示されている引用に注目する視点等々、工夫があって良い。しかし、もっと深めていくこともできるのではないか。生徒Cの発言が「と解釈できるね」で終わっているが、「そういう視点が得られる」というまとめかたにした方が、実際の授業のあり方に近い。引用にコンテキストがあるように、生徒たちの発言にもコンテキストがあるはずだが、そこを踏まえての考え方の比較にまで進めることはできないだろうか。

第2問 本文もやや長めであるが、問7を含めると情報量が多すぎる。また、心情についての問題ばかりになっている。問いにバリエーションが欲しい。

問1・問2 導きの問題として、妥当。

問3 「心の動き」という問いに対応した答えになっていない。老人の心情を読み取らせる問題にするなど、「私の心情」以外の問いにするチャンスだったと思われる。

問4 丁寧に読めば読める良問。誤答④の内容を正答①に組み込むくらいでも良かったか。

問5 口調まで言及している問題は珍しいが、口調の説明だけで判断できてしまう。静かな生活や新しい生活といった内容についても言及して欲しかった。

問6 問わないわけにはいかない部分。バランスも取れている。

問7 新しい形式で問いを作る，という意識が強すぎる。リード文が唐突で，誘導しすぎている。情報量が多くなりすぎている割には，構想メモを見れば解ける。また，他人の構想メモを見て，何かを考えるということは現実から離れすぎている。(i)の正答「事物」は抽象的すぎて答えになりきっていない。問7の選択肢は，全体的に抽象度がそろっておらず，課題を感じる。

第3問 古文は一文が短めなので読みやすく，本文の長さも適切であった。和歌を取り扱った内容としても適切である。ただし，設問でもう一つの文章を読ませる場合は本文をもう少し短くしてもよいのではないか。また，この本文はベネッセの問題集「Learn-S『2023共通テスト対策 実力養成 重要問題演習古典』(2021年1月発行)」(<https://www.learn-s.co.jp/edu/g/g51224/>)に掲載されていた。受験者にとって不公平にならないよう，出題する文章は精査してほしい。

問1 ア「さしまはす」の「さし」が注2で正解の要素を含んでいるのは要改善。イ・ウは妥当。

問2・3 ともに妥当。(問3の「平がりて」の意味や身分差があることの把握は難しかったか。)

問4 受験者は生徒と教員のやりとりの部分を先に読んで，その後と比較の文章を読んで理解するというテクニックを身につけている可能性がある。問4の文章は二つの句以外は現代語訳でもよかったのではないか。無理のある選択肢はよくないので，4択にしたのは分量を減らす意味でも良い。

第4問 難易度も文章量も適切である。【予想問題】【模擬答案】と区切られていたので受験者は整理しながら読めたのではないか。

問1・問2・問4・問6・問7は妥当。

問3 白文に上中下点まで施すという点で難易度が高い。白文が読めることの意図は何か。この難易度でこのような形式は「国語総合」の範囲では相応しくない。

問5 「国語総合」では，実際にある文章について問うのが妥当で，本文の復元(穴埋め)や白文の解釈などは範囲外と考える。この問いの「必」は問うべき箇所とは思われない。無理に設問を7問作る必要があるのか。問6まででよいのではないか。

3 総評・まとめ

前文参照。なお，問題冊子全体で50ページ超というのは，分量がかなり多い。

4 今後の共通テストへの要望

新しい学習指導要領を踏まえた授業・学習への意識を高める工夫がなされているとは思いますが，実際の授業のあり方と離れている部分もある。問題文を見つけることに力を使いすぎているのではないか。共通テストによって，授業がどのように変わっていくのかが見えにくい。ただし，変わっていく方向は良いと思うので，作成の際の制限等はあるかもしれないが，この流れを続けてほしい。

本文の後に資料や他の文章があるので，冊子を行ったり来たりすることになる。2段組にするなどして，物理的な読みやすさを工夫することは不可能だろうか。また，現代文を中心に，いわばノイズが多く，読み解きづらい。本質的な思考を問う問題にしてほしい。